

頭陀袋

57

平成二十九年三月号

発行 中山かんのん

恩林寺



中山中学下、電話三四一―一二四五

おのれの主

おのれこそおのれの主。おのれこそおのれの頼りである。だから何よりもまず、おのれをおさえなければならぬ。

私たちはしばしば自分を見失います。解

つていながらじぶんではどうしようもな

くなるのです。その理由は様々です。「あ

いつに負けた。悔しい。」などということ

はよくあります。(金や地位を失ってこれ

からどう生きようかと、絶望することも

あるでしょう。希望通りに運ばないこと

もよくあります。病気も、失恋も人生に

おける大きな心の傷となります。平成二

十年東京の秋葉原で通り魔事件が起こり

ました。犯人の青年は秋葉原の歩行者天

国にトラックで突っ込んだ後ナイフで凶

行に及び、十七人の死傷者を出しました。

通り魔事件としては史上最悪の事件と言

われています。その青年は「思い通りにい

かないことがあって誰にも話せない。だ

れでもいいから構ってほしかった。」と、

述べております。やったことはもちろん

許されないことですがこの思いは社会に

疎外された現代の若者に共通しているの

かもしれない。しかし思い通りになら

ないと思うのは自分の自我に振り回され

ているからです。その自我が「ないものね

だり」をし、「限りなくねだる。」からいつ

も欲求不満に苦しむのです。これは私た

おてら

市に行こう。

おしようさんと

ともたち

友達になろう。



ちの性と言ってもいいでしょう。傷ついたら心はいやさねばなりません。そして空腹になったらじぶんで食事をするしかないように、心が傷ついたら自分自身で癒すしかないのです。こればかりは他人にねだって頼むことはできません。自我や欲望を整えることにつながるのです。

おのれこそはおのれの主(あるじ)

おのれこそはおのれの頼りである。

だから、なによりもまず

おのれを抑えなければならぬ

「パーリ法句経より」

*恩林寺春のお彼岸法要のご案内

三月十九日(日曜日)午前十一時

涅槃忌(お釈迦様の亡くなった日にち

なみ、ご供養をいたします。)

彼岸会(私たちが先祖を偲び、ご供

養をいたします。)

なお、お齋を準備いたしております。

(ひきつずき懇親会)

当日は、関市 正溪寺様、

各務ヶ原市 清見寺様、

高山市 宗猷寺様、に

御加担をお願いしております。

お参りいただける方は三月十五日こ

ろまでにお寺に御連絡下さるよう

おねがいたします。